

図-4 食害防護ネットの概要

鳥類および魚類の食害対策ネットの破損 (沈水 f)
 ネットの破損が確認された場合は、補修または交換を行う。

大型魚類の侵入 (沈水 g)

設置した網目サイズを通り抜けられない魚類が浮島内部に確認された場合、沈水植物の食害の恐れがあるため、タモ等の網により除去する。

(2) 沈水植物植栽基盤水深の管理 (沈水 h)

沈水植物用浮島の植栽基盤の設置水深は、対象水域の水質等の環境条件、植物の繁茂状況により適宜設定する。

植栽初期

夏季（または透明度の低い時期）における水中光量子の水面に対する透過率が 20% 以上となる水深もしくは透明度の水深の 70% 以浅、かつ植栽する沈水植物全体が水面下となる水深に植栽基盤を設置する。

植栽 1 年後 ~

水面まで沈水植物が生長、透明度の増加に伴ない、前記期間中の水中光量子の水面に対する透過率が 20% 以上となる水深もしくは透明度の水深の 70% 以浅にまで植栽基盤の設定水深を適宜下げる。

(3) 破損状況等の点検 (抽水 i)

台風等の強風発生直後、または定期的（1 回/4 ヶ月程度）に巡回し、次の点について点検を行い、必要な措置を講ずる。

- | | |
|---------------|------------------|
| フロートの破損 | フレ - ムフロートの交換 |
| ゴミの漂着 | ゴミの除去 |
| 植生基盤支持フレームの破損 | フレームの交換、係留方法の再検討 |

2.3 係留設備の管理

別所沼における浄化実証試験では、係留方法を図-5 に示すような沼底に固定した竹杭に鋼線で係留する方法で行った。これは、狭い隔離水界内で浮島の横移動を極力少なくすること、水深が浅いこと、及び植物の維持管理を行うため、係留設備からの切り離しを容易にするためである。

したがって、台風等の強風直後に点検し、竹杭または竹杭と浮島とを連結する鋼線に破損が無いか確認する。破損が見られた場合は、速やかに竹杭や鋼線の交換又は補強等の措置を行う。

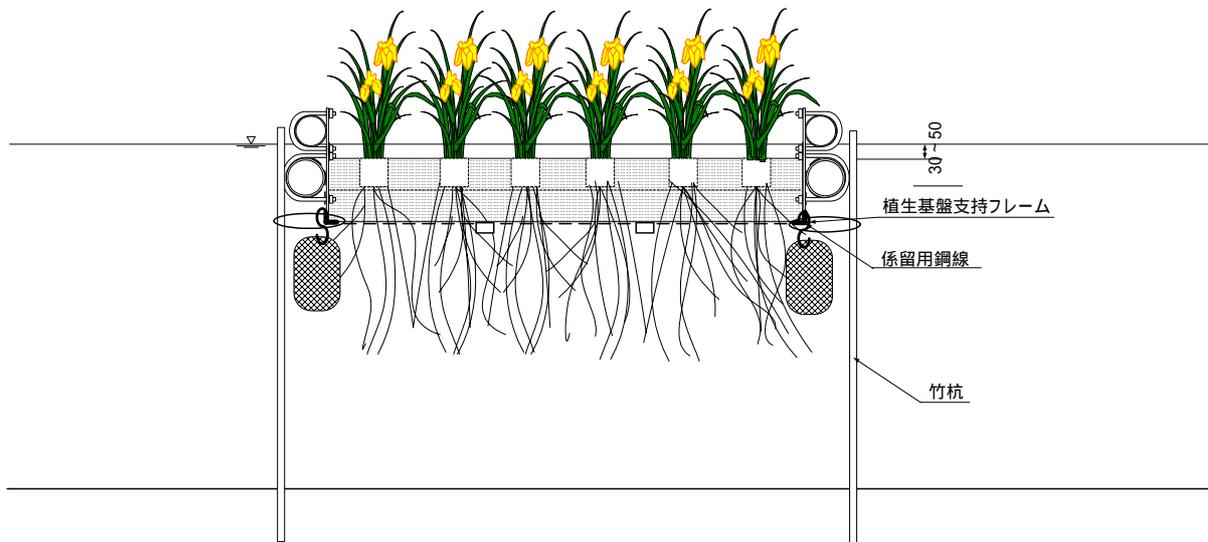


図-5 係留方法の概要

3. トラブルの対処方法

植生浮島について、運営上想定される主なトラブルに対する対処方法を以下に示す。

(1) 抽水植物用浮島

- 植物の生育がよくない 抽水 a、b、c、d を参照
- 抽水植物の根茎が発達しない (セキショウなどあまり発達しない種もある) 抽水 c を参照
- 浮島の植生基盤の水深が大きくなった (浮島が沈んできた) 抽水 d を参照
- フロートが破損している 抽水 e を参照

(2) 沈水植物用浮島

- 植物の生育がよくない 沈水 a、b、c、d、e、f、g、h、i を参照
- 魚類避けネットが目詰まりした 沈水 e を参照
- フロートが破損している 沈水 i を参照

(府県名) 埼玉県

(環境技術開発者名) 株式会社 フジタ

4. 安全衛生管理上の注意事項

運転及び維持管理作業に当たっては、次の点に留意して行う。

水上でのボート作業に際しては、救命胴衣を着用し、2人以上で作業する。

作業内容に応じて適宜、手袋、ひざ当て等を着用し、怪我を防止する。

浮島の結束資材、碎石等は、作業終了後適切に処理する。

お問合せ先

株式会社フジタ 技術センター 環境研究部 (担当 : 島多、袋)

〒243-0125 神奈川県厚木市小野 2025-1

tel.046-250-7095 fax.046-250-7139